



インタビュー・スピーチ大会

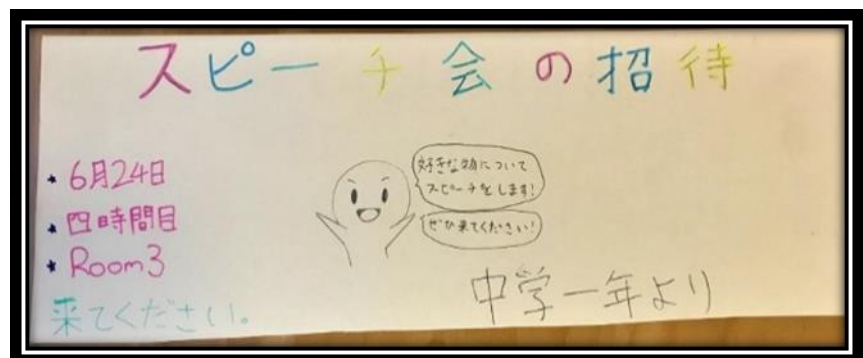
一年で一番陽が短い日(夏至)が終わり、これから少しずつ、昼の時間が長くなっていくはずですが、実際には、これから冬本番の様相を呈していくのだろうと思っています。夏を一回跳ばした私にとっては、長すぎる冬です。



6月24日1時間目に小学5年生「きいて、きいて、きいてみよう」の単元で私へのインタビューを行う授業がありました。「聞き手」「話し手」「記録者」の役を全員が交代で行えるように、事前に用意していた質問を校長の私にインタビューする授業でした。最初は、緊張した面持ちで、堅苦しく進んだのですが、慣れてくるうちに、色々な質問が出て盛り上がりました。

私も楽しくインタビューに答えられ、5年生の児童と触れ合うことができ、有意義な時間を過ごしました。

先週、中学1年生からスピーチ大会の招待状を頂き、6月24日4限目に参観してきました。「わたしの好きなもの」という題材で、準備してきた話を、堂々と披露してくれました。みんな、緊張の



中1からの招待状

中にも自分の思いを伝えたいという気持ちが、表れていて、その姿勢に大変うれしく感じました。現地校に通いながら、土曜日は補習校に通い、さらに自分の好きなものに打ち込む頑張り、忙しいかもしれませんが、心からその姿勢に応援をしたいと思います。



6月10日の授業参観及び年次報告会に多くの方々にご参加いただき誠に有難うございました。あの会でも申し上げましたが、本補習校にとっての最大の課題は、文科省が掲げる補習校の定義と本校に通う児童生徒の実態が大きくかけ離れている現状ではないかと思っております。実際に、授業を参観した保護者の方から、先生の言っている日本語を理解できないため、学校が嫌い

になりかけているような子や、そのために授業が滞ってしまいそうな現状を見て、何かお手伝いが出来たら、という有り難い申し出もありました。その辺りのことについては、補習校としても前向きに検討していきたいと考えています。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。



6月24日には、中学部保護者の方々が中心となって、おやつ販売がありました。日本の学校では見られない光景に多少驚きましたが、様々なおやつを楽しそうに選ぶ子ども達の表情がとても印象的でした。販売も大盛況だったとのこと。皆様のご協力、ありがとうございました。

文部科学省からのお知らせ

「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成28年度）」の結果について
平成28年度における日本語指導が必要な児童生徒数は約44,000人であり、2年前の調査から約7,000人の増加となり、この10年間では1.7倍に増加しました。

調査結果の詳細については、こちらを御覧ください。

→ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/genjyou/1295897.htm

（お問合せ先）

初等中等教育局 国際教育課 日本語指導係

電話：03-5253-4111（内線3479）